

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 27 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	下川 周子	会員番号	0032332
申請者の所属・職名	理化学研究所 統合生命医科学研究センター 粘膜システム研究グループ 特別研究員		
出席会議名	International Congress of Mucosal Immunology 2015		
発表論文タイトル	Resistance to a helminthic infection is dependent on mast cell activation mediated by ATP in Spi-B-deficient mice		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠にありがとうございました。

私は、2015 年 7 月 14 日～ 18 日にドイツ・ベルリンで開催された、「International Congress of Mucosal Immunology 2015 (国際粘膜免疫学会)」に参加させて頂きました。本学会は、世界中の著名な粘膜免疫学分野の研究者が一堂に介し、最近の研究成果を発表するということもあり、腸管免疫学の研究をしている私にとっては非常に有意義な学会でした。

私自身は、「Mucosal Infections」というセッションで、「Resistance to a helminthic infection is dependent on mast cell activation mediated by ATP in Spi-B-deficient mice」という演題で口頭発表させて頂きました。私の専門は腸管免疫学の中でも寄生虫感染を対象としている分野で研究者人口が少ないこともあり、残念ながら私以外には寄生虫感染と粘膜免疫についての口頭発表はなかったのですが、本研究が多くの方々に興味を持っていただけたこと、意見やコメントを多数頂けたことは、自分の研究の発展という意味ではもちろんのこと、本分野の発展といった面でも、大変有意義な機会であったと思います。

中でも印象的だったのは、ポスター発表でしたが、私が学生時代に行っていた腸管寄生虫原虫である赤痢アメーバと腸内細菌の研究があり、SFB が赤痢アメーバの感染に対して抵抗性に働くこと、そのメカニズムとして骨髄での GMP の分化異常が関係しているという発表でした。『腸管』で起こる寄生虫感染と『骨髄』で起こる血球分化、この2つの異なった場所での免疫学的なイベントが一体どのように結びつくのか、そのメカニズムについて研究者と深くディスカッションをさせて頂けたことは、今後の自分自身の研究にとってもたくさんのヒントを得ることができ、非常によい経験になったと思います。

今回の貴重な経験を活かして、今後も寄生虫感染免疫学分野で世界レベルの研究を行うことが出来る様、これまで以上に精進していきたくと思います。